

2002年8月3日

エストニアの日本語教育事情

報告者: 高橋 清彦
エストニア共和国タリン市
ヤルヴェオッツア高校

1. 歴史: 1991年8月、旧ソ連邦より独立回復
それ以前に1918年から1940年まで「エストニア共和国」として
独立国の時代があり、エストニア人は一次独立時代と呼んでいる。

2. 人口 (1997/1 現在)

エストニア人	95 万人	(65%)
ロシア系住民	42 万人	(29%)
ウクライナ、白ロシア、)	10 万人	(6%)
フィンランド系及びその他)		

147 万人

3. 公用語: エストニア語 (フィン・ウゴール語系)

* エストニア国籍を取得するには「言語法」の制約があり、国家所定の
エストニア語の習得度合いを計る試験があり、外国人は容易に国籍を
取得し難い。その言語試験の程度はかなり高度で、かなり正式に
長期間の勉強をしないと到底合格出来ない程度のレベルである。
特に文法的に正確な表現を要求される。

4. 義務教育: 12 年間 [最終は普通高校、又は職業専門学校]
高等教育: 大学 4 年間 8校 (国立 5校、私立 3校)
大学院 //

高等専門学校 25校

5. エストニアでの日本語教育機関

大学院レベル以上: 無し

大学: 3校 (国立タルツ大学、国立タリン教育大学、
私立タリン人文大学)

高校: 1校 (タリン市立ヤルヴェオッツア高校)

6. 日本語学習者数（現在学習中の学生数）と使用教材： 合計 約 90名

1) 国立タルツ大学： 1997年9月 日本語講座開講

現在は哲学部言語センター所属の
外国語講座と言う位置付けにある。

学生数： 使用教材

内容：	履修4年次（中級前半）	4年目コース	6名	日本語中級 J301
	履修3年次（初級後半）	3年目コース	5名	日本語初歩
	履修2年次（初級後半）	2年目コース	8名	日本語初歩
	履修1年次（初級前半）	1年目コース	12名	日本語初歩

31名

卒業生： 開放講座の為、特に「卒業者」とは称さないが4年次以上の講座は存在しない為に4年次修了者が最終で若干名いる。

2) 私立タリン人文大学： 1989年 創立と日本語講座〔学科〕開始

現在は東洋学部日本語学科

学生数： 33名

内容：	上級：	8名	様々な生教材
	中級：	7名	楽しく日本語を読む本・初中級 なめらかな日本語の会話、
	初中級：	8名	みんなの日本語 I, II、新文化初級日本語
	初級：	10名	にほんご45じかん

33名

使用教材

卒業生： 5名

3) 国立タリン教育大学： 2000年1月開講

言語学部東洋学センター・日本語講座（一般学生・市民への開放講座）

学習者数： 12名

内容：	中級：（履修開始後2年半）	5名
	初級前半（履修開始後1年）	7名

合計 12名

使用教材	初級日本語及び同教材付属教材（東外大留学生センター編）
	中級日本語 〃 （ 同上 ）

タリン市立ヤルヴェオッツア高校

学生数：	14名	
内容：	高3（履修3年済 初級後半）	3名
	高2（履修1年済 初級前半）	1名
	高1（9月履修開始予定者）	10名

合計 14名

使用教材

高3	みんなの日本語I	又は	初級日本語（一部優秀者のみ）
高2	にほんごかんたん	Book	2
高1	にほんごかんたん	Book	1

卒業生： 86名

現在の日本語学習継続者 10名

内訳：	タリン人文大学日本語科に進学し在学中	3名
	APU（立命館アジア・太平洋大学）留学及び留学決定者	3名
	タリン教育大学日本語講座で継続	2名
	個人レッスン及び独習者	2名

その他の卒業生は現在、日本語とは縁なし

7. エストニア人の日本語話者： 約 25名

1) ソ連邦時代の日本語習得者： 4名

内訳：	レニングラード大・日本語科で習得	2名
	モスクワ大・日本語科で習得	1名
	独学で習得	1名

* 旧ソ連時代には、エストニアで日本語を習得出来る組織的な機関は皆無。

2) 独立回復後に日本語を実用レベルまで習得したエストニア人 約 20名

- (1) タリン人文大学卒業及び修了者 6名
(内、2名は人文大学日本語教師、共に日本政府（文部省）奨学金留学生として日本滞在長期研修受講済、残りの2名は在エストニア日本大使館勤務)
- (2) タリン人文大学上級クラス在籍者 5名
- (3) 国際交流基金招聘の外交官日本語長期研修受講者（受講済） 3名
- (4) ロータリークラブ奨学金による長期日本留学修了者 2名

- | | | |
|-----|-----------------------------|-----|
| (5) | 専門学研究者レベルでの奨学金による長期日本留学修了者 | 1 名 |
| (6) | 日本政府（文部省）奨学金留学生にて留学経験者及び留学中 | 6 名 |
| (7) | APU 留学中 | 3 名 |
| (8) | 私費留学経験者 | 2 名 |

以上、各種奨学金による日本長期留学経験者（10ヶ月以上）が合計14名、
 APU（奨学金）留学者 3名
 私費留学者 2名
 エストニア国内学習のみで習得 2名

合計 21 名

この人々が独立回復後に育った日本語話者として挙げられる。

従い、現在のエストニア国内での日本語実用レベルでの話者は、ソ連時代の旧世代の人々を含めても約25人程度であると思われる。

8. エストニアの日本語教師：

- | | | | |
|----------------------------------|--------------|-----|--|
| 1) | 国立タルツ大学 | 1 名 | 宮野 恵理 氏 |
| (国際交流基金現地講師謝金助成適用、但し2002年度は打切決定) | | | |
| 2) | 私立タリン人文大学 | 4 名 | Ms. Mallet Nukke,
Mr. Alari Allik
正木 亜希子 氏
Ms. Janne Sakura |
| 3) | 国立タリン教育大学 | 1 名 | 園部 広幸 氏 |
| (国際交流基金現地講師謝金助成適用) | | | |
| 4) | 公立ヤルヴェオツツア高校 | 1 名 | 高橋 清彦
(園部氏も兼任) |
| 合計 | | 7 名 | (邦人4名、エストニア人3名) |

以上

特記事項： 上記の中、タリン教育大学（国立）とエストニア人文大学（私立）はタリン所在の他数校を統合して、新国立大学「タリン大学」に統合され、2003年9月発足予定。
 新大学発足後は両校の日本語講座は統合される見込みなるも詳細未定。